

1月

# フランス便り

18P065 田中早弥

## はじめに

長い冬休みも開けて、学校生活が再スタートしました。外は寒いですが風が少なく、体感温度はさほど寒くありません。しかし、乾燥が激しくハンドクリームが手放せない日々が続いています。1月のフランスの様子をお届けします。

## ガレット・デ・ロワ

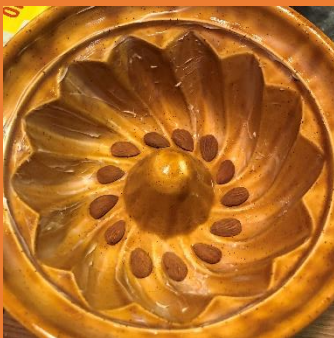


フランスでは1月6日にガレット・デ・ロワというケーキを食べます。地域やお店によって異なりますが中にアーモンドクリームの入ったものが一般的です。ケーキを家族で切り分けて一番年齢の低い人がテーブルの下に潜ってケーキの配当を決めます。ケーキの中にはフェーヴ (Fève) という陶器の小さなおもちゃが入っており、それを当てた人は王様 (女王) になります。そしてその日一日みんなから祝福されます。

ガレット・デ・ロワとは諸王 (3博士) のガレットという意味です。これは、キリストが誕生した時に「バルタザール」、「メルキオール」、「ガスパール」という3博士がキリストの誕生の祝福に乳香、没薬、黄金を送ったとされる言い伝えがもとにされています。フランスではこれを食べないと一年が始まらないと言われるほど有名な文化です。



## クグロフ



アルザスの特産品で有名なクグロフというパンをホストファミリーと一緒に作りました。今回はアーモンドを使用しましたが、クルミを使ったクグロフはストラスブールならではのクグロフだそうです!



1月

# フランス便り

I8P065 田中早弥

## ルーヴル美術館

冬休みに行く予定だった(ストライキで行けなかった)ルーヴル美術館にやっと行くことができました。前もって予約券を買っていったので、30分から50分ほどで入ることができました。ルーヴルの中は各ジャンルにエリアが分けられており、大まかに古代のオリエント、ギリシア、エジプト、彫刻、絵画、装飾美術などのジャンルに分けられています。美術館の中はとても広く、私のその日の予定は午前しかルーヴルを回れないプランだったので、主にローマ彫刻と、絵画を見て回りました。

## 鼻のない彫刻

彫刻のエリアでは、どれを見たらいいのかわからないほどにたくさんの彫刻が展示されていました。中でも印象的だったのは、鼻が削り落ちてしまったような彫刻が度々見られたことです。



拡大



その原因は、時代の流れと共に宗教の信仰が変わることで起きた争いの中で、それぞれの彫刻が表現しているメッセージ性を否定する為に、意図的に何者かの手によって削られたのではないかという説があります。明確な理由はわかりませんが、あまり芸術に詳しくない私でも何か疑問に感じる様な作品が数多くありました。

## ミロのヴィーナス

ルーヴル美術館の展示品の中でもひと際存在感を放っていた彫刻がこのミロのヴィーナスでした。この作品の展示されているスペースだけ広々とした空間になっており、作品の存在感をより際立たせていました。この彫刻はギリシア人の残すギリシア文明と精神を残す代表的な作品の一つです。



## 絵画

絵画のエリアでは、イエス・キリストに関する絵画が数多く展示されていた印象です。四コマ漫画の様に何枚もの絵で一つの作品となっているストーリー性を感じる絵や、空間図形を使った絵の重要ポイントに自然と、目が向くような絵が多くありました。



## モナリザ

その中でも特に人々が注目していた絵は、レオナルド・ダ・ヴィンチが手掛けた名画「モナリザ」です。モナリザの前にはその絵を一目見ようと並ぶ人たちの列が作られていました。モナリザの絵には多くの秘密が隠されていることで長い間研究者たちがその謎を解明しようと活動しています。一説には、この絵は右と左で男と女を描いているという有名な説があります。実際自分の手で半分を隠してみるとその違いが分かりやすいです。



また、ルーヴル美術館の建物は1190年頃に作られた城をそのまま美術館として利用しているので、建物内のいたるところの天井に大きな絵や装飾が施されています。展示されている美術作品はもちろんですが、城の内装に目を向けてみるのもまた、ルーヴルを楽しむ一つの方法ではないでしょうか。

1月

# フランス便り

I8P065 田中早弥

## パリのメトロ

パリのメトロに初めて乗りました。パリ構内はゾーンで各区域が区切られており切符を買う際に、自分の生きたい目的地がどのゾーンにあるのかを確認する必要があります。私は、一日中パリを観光する予定だったので、パリの観光名所が固まっているゾーン1と2の一日乗車券を買いました。値段は7.5€とお財布に優しい価格でした。そしてパリの交通機関を利用するにあたって注意しなければならないのが、スリが本当に多いという事です。私も移動中のメトロの中で鞆を半分開けられていました。スリを警戒してチャックの部分が自分の胸元に来るタイプの鞆に貴重品を入れていたのですが、



車内に乗客が満員になるタイミングで私の鞆の上に大きめの鞆を被せてみえないようにし財布を取られそうになりました。目の前にいるのにもかかわらず、取られそうになったことにも驚きですが、何よりスリをしようとしていた人が私よりも若いような女の子だった事に驚きました。ストラスブールでも路上でお金を恵んでくれと声をかけてくる人はたくさんいますが、その大半が大人の方でした。おそらくお小遣い稼ぎの感覚でスリに手を出しているのではないかと思います。皆さんもパリを訪れる際は十分に注意をしてください!



## まとめ

約四か月経ってようやく念願のパリに行くことができました。ストラスブールを離れるのはこれが初めてで、とてもわくわくしましたが、変な人がいないかとずっと緊張していたので、ストラスブールに帰ってきた時はすごくほっとしました。留学期間も残り後わずかとなってしまいました。すでにここを離れたくない寂しさに駆られています。残りの時間を悔いのないように過ごしたいです。

